

# 「フライブルク観光局」

## ～ 観光振興（DMO）について ～

報告者：兎本 和久

### 1. 概 要

- ▶ ドイツでは、広域観光ルートの形成・運営において、州レベルのDMOと地域DMOが連携している。
- ▶ フライブルクDMOは、地域DMOであり、フライブルク市が出資する有限会社。観光プロモーションだけでなく、経済振興コンベンションセンターの運営、イベント・見本市の開催といった、さまざまな業務を担っている。
- ▶ フライブルクの年間観光客数は、約 76 万人(2016 年度統計)。

### 2. 説 明 者

フライブルク観光局長・マーケティング部長 Ms. Sabine Weber-Loewe



Ms. Sabine Weber-Loewe

### 3. 主な説明内容

フライブルク市はドイツ南西部にあり、スイス、フランスの国境沿いの観光都市で、過去には戦争もあったが、ライン川で結ばれた観光都市である。



フライブルク市内の様子

フライブルクDMOは、30年前に一つの組織体として作られたDMOであり、町の組織として動き始めた。同DMOの職員数は現在160名であるが、発足時は、所長1人、補助員1人の体制から始まった。

同市は大学の町、環境の町、ドイツで一番長寿の町である。人口は2015年で22万6千人。中世のまま保存された城門の町であり、町のシンボルは、フライブルク大聖堂である。小さな小川がたくさんあり、この流れはきれいで、下水としてでは

なく、中世には火事が多発したため、消火用の水として利用されてきた。この地域の市民がこよなく愛する「黒い森」からドライザム川を通過して町へ、きれいなままの流れが注いでいる。

また、大学があることによって、人口構成が若く、新しく建てられた大学の図書館は、地下3階すべてが自転車置き場として利用されている。環境と気候に恵まれていることから食べたり、遊んだりするのは、屋外で行うことが多い。

また、演劇場やオープンエアな空間の美術館、博物館もあり、歴史的な町でありながら近代的で新しいものを取り込もうとしている先進的な市でもある。

ドイツ連邦の中で日照時間が一番長く、ヨーロッパの中心に位置していることから、この立地を生かして風力発電、太陽光発電も盛んで、環境の市としてグランプリを受賞するなど、環境行政にも力を注いでいるところである。



フライブルク市役所での説明聴取の様子

## ➤ フライブルク観光局の活動

大学があるので、研究機関が多く、美術館、博物館、演劇場等も活用し、年間を通じ色々なイベント開催を支援している。夏の終わりからは、1週間以上のワインフェスティバル開催やクリスマスマーケットなども有名で、4週間もの期間、開催している。



まちなかを流れる小川

食事に関しては自然を生かした地産地消のグルメの町で、フライブルクの地ビール、ドイツ風クリームケーキ、クリームシチューなどの販売の促進や、年20回程度の商業フェアの開催を支援している。また、年1回のブックイベントの開催も支援している。

2本目の柱として、大学病院があるので、心臓疾患治療のメッカとして、多くの人が訪れている。また、療養支援など、温泉を生かして患者のための医療支援活動等を行っている。

## 4. 主な質疑

○ 黒い森での祭りで、女性の服装は有名だが、男性はどうか？  
→ 男性は白いシャツ、ズボンに黒、チョッキ等で、あまり目立ってはいけない。

○ 大都市と地方都市の観光地としての差は何か？  
→ ドイツに観光に来て、1度目にフライブルクに来ないのはしかたがないが、2、3度目のリピーターには来てもらえるよう努力するとともに、富裕層に来てもらうこと。



○ ドイツの医科大学の構成はどうか？  
→ 競争を乗り越えて医者になり、その知名度で海外からの患者が来る。また、医科大学も600年の歴史があり、1400年頃から医学が発展してきたことから、医療を目的に来訪する人も多い。

- 観光客だけでなく、健康促進や環境に力を入れておられ、素晴らしい。その点について伺いたい。
- ベネチアは一番の観光地に違いないが、フライブルクは、「23万人の住民に、いい気分で生活していただきたい」という理念のもと、観光だけでなく、健康促進や環境保全について最優先で取り組んでいる。

## 5. 所 感

今回の視察により、歴史と文化の町の再確認をした。ドイツは城塞都市であり、長流ライン川での歴史、文化交流を図り、自然を守る大切さ、広域観光ルートの形成・運営においても、州レベルのDMOと、地域レベルのDMOが連携していることを学ばせていただいた。それらの連携は、本府における、「海の京都」、「森の京都」、「お茶の京都」と、関西広域連合での7部門の一つの観光DMOの共通課題。また、地域観光だけでなく、自然との交流認識、自然エネルギーとの関連性、医学関係との連携促進等、すべてが、まちづくり、地域づくりの一貫性があるDMOであると思う。

まちは、市民参加で市民のアイデアを中心にまちづくりを行うものであり、自然を守る大切さ、特に、人々に目を開かせることが大切であると思われる。

ドイツのツーリズムは、ドイツの経済省が担当(観光局として)しており、観光地としてのマーケティング調査を行っているため、ドイツ国内の16都市の連携を促進している。

最後に、フライブルク市の説明において、

「皆さん、太陽は請求書を送って来ませんよ」と言われた言葉が心に残りました。